

# エコキャロットの会

「エゴ（わがまま）を捨て、エコ（自然と共に）生活」

「太陽を味方に！雨のしずくを味方に！！」

「気温と相談して、風と話して」

## 自分たちで できることから

「家庭の生ごみを市の回収に出さずに堆肥にして循環型の社会を目指そう」と2005年にかぶと塚公園周辺（忠生3丁目）の忠生忠霊地区自治会の主婦たちでこの会を立ち上げた。ちょうどこの頃、ごみ袋が有料になったこと、代表の

喜多川さんの幼なじみ橋本力男さんから堆肥づくりを勧められていたことがきっかけとなった。橋本さんは三重県で堆肥・育土研究



堆肥の切り返し作業をするメンバーたち

家として活動をされており、喜多川さんたちも指導を受けながら堆肥づくりを始めた。「エコキャロット」の名前の由来は、橋本さんからお土産にいただいた有機野菜の人参があまりにも甘く美味しかったので、この人参に因んで付けたという。

## 生ごみで堆肥づくり

堆肥づくりは、最初に毎朝前日に出た生ごみを、穴をあけた衣装ケースの中に入れ、上から米ぬかやもみ殻で作った床材をふりかけ太陽の当たる場所に置き4か月間ため

ておく（一次処理）。臭いの方が気になるが、生ごみをあまり水につけないように気を付ければそれほどでもないそうだ。どうしても気になる場合は床材を多めにまくと臭いは抑えられる。そのあとは、かぶと塚公園と歩道の間のスペースに、各家庭から持ち寄った生ごみをぬかや土と合わせて切り返し処理をし、それをまた寝かし10日後にまた切り返しをする（二次処理）。その切り返し作業がかなりの力仕事で終わるころには皆さんへトへトになるそうだが、この工程で堆肥づくりを年3回行っている。苦勞をして作った堆肥はふかふかで



かぶと塚公園の花壇

## 花をつくることで より良い公園に

公園に花を植えたことで、それまでは不法投棄や違法駐車がとても多く物騒な公園だったが今ではそれも無くなった。「お年寄りの方がベンチに腰を掛けてお花を見たり、犬の散歩の方が朝夕花をながめてくれる姿を見ると、この活動をしていて本当によか

ったと思います。」と石川さんと小磯さん。「堆肥づくりをしよう。」と声をかけるとすぐにメンバーが集まったり、花壇をつくるのが決まった時に自治会の60歳代の有志の方が竹と廃材で花壇の枠を作ってくれたり、やはり自治会などの地域活動で培



代表の喜多川さん（前列左から2番目）

った信頼が大きかったという。「今後は私たちのように堆肥づくりをする団体が町田市全体に広がっていてもいいですね。興味がある方はぜひご連絡ください。皆さんの力で町田市から少しでも生ごみを減らしましょう」と代表の喜多川さんは話す。

## エコキャロットの会

町田市忠生3-20-5

TEL/FAX: 042-793-2701(喜多川)

E-mail: joy.chikako@tea.ocn.ne.jp